

一月二六日

町づくり支援センターのやり残しに関して、いささかの考えが出たのでフォローする事としたい。まずは自分でモデルを示さなければならぬだろうな。それからスタッフに渡す。スタッフはそれぞれに様々な能力を持つ。しかしながらその能力は多くの場合埋もれたままに放置されているか、自分で埋めてしまっている事が多いのだ。七時四五分起床。今日は近くの泉高校で高校生に講義をする。朝、レクチャーの準備。金物の食器のスケッチを木本君に送る。通信の形にすると、とりとめのないままのアイディアもまとまりやすい。十二時半頃成城行のバスで世田谷工業高校へ。旧工業高校だと聞いたので、つきりそうだと思い込んでいたら、これが大間違い。泉高校は旧烏山工業高校だった。TAXIで旧烏山高校現泉高校へ。烏山の北口であった。校長先生村島先生あいさつの後、十三時二〇分より五〇分のレクチャー。一番前の席で一人眠ってる女の子がいたので、眠ってもよいから後ろの席で寝てくれとたしなめる。大学と同じだ。こんな事を注意する先生が居ないのだろうか。二つのグループに分かれての世田谷村見学のプログラムだったようで、全てには附合えずお別れ。一人でも気持の何処かに刺激を受ける高校生が居ればと思つて話したのだが、どうだったか。しかし、考えようによっては高校生相手でも手を抜けないと言つのがいかにも私らしい。親父も高校生相手の教育者だったし、川合健二も宮本常一も若い私を相手に決して手を抜かなかつたからなア。しかし、もっと大きかった。ま

だまだだなあ。

夕刻世田谷村屋上に上り、土を掘り返す。水仙が咲いていた。温めていたイメージを銅版に刻む。しばし没頭する。久し振りに土を耕す作業をしたので体が変だ。二十一時迄銅版に取り組む。二点に着手。荒地の風景に巨大なアンモナイトが登場している。なんだろう、これは。昨年はある体調、気力のおとろえの中でよくやつたんだなあと思議な気持。こういうものの制作は体調とは無関係なのかもしれない。

一月二七日

七時十五分起床。銅版に少し手を入れる。

九時過ぎ杏林病院定期検診。異常ナシ。体は確実に回復している。午後馬場邸現場。高山邸現場を廻り、十五時半研究室。明日の講演会準備。十八時東大。技術と歴史の会。中谷礼仁講演を聴く。歴史家としての活動がアレキザンダーまで一見無原則の内に拡散しようとしているのに少々の危惧を抱いたが、彼は四〇才。発展途上国だ。頑張つて欲しい。アレキザンダーの失敗は資本主義の経済・技術の枠を余りにも軽視しているところから来ているのだが、渡辺保忠の建築生産組織論を学んだ筈なのにそれが、まだ分離しているようだ。しかし今、時代が変わり始めているので、未来はわからぬ。アレキザンダーが中世主義者であるという、すでに歴史的批判もあるが、どれ位のスペインの批判だったか。難波、鈴木、伊藤先生方等に久し振りにお目にかかる。正門前の料理屋で会食後、二十三時過世田谷村に帰る。